

令和6年9月7日（土）東松山市の塚原南遺跡において、遺跡見学会が開催されました。当日は暑い中、約100名の参加がありました。

荒川上流河川事務所は、当遺跡の発掘調査が行われるきっかけとなった、入間川流域緊急治水対策プロジェクトの事業説明や、この場所が令和元年東日本台風による堤防決壊箇所であったことなどを説明しました。

令和6年度 第1回 遺跡見学会資料 令和6年9月7日（土）

# 東松山市 塚原南遺跡(第2次)

塚原南遺跡は、都幾川に沿って形成された段丘の上に営まれた遺跡です。令和5年度に第1次調査を、令和6年度に第2次調査を行っています。発掘調査では、縄文時代（約6,000年前）から中世（約700年前）まで、幅広い時代の遺構や遺物が見つかっています。

今回の見学会は、中世の溝跡に焦点をあてました。近年、鎌倉・室町時代は、にわかには脚光を浴びています。塚原南遺跡やその周辺ではいったい何が起こっていたのか探っていきます。

写真上の森を囲むように、し字形に溝がつけられています。森の部分は、地元で昔「かわらけ山」と呼ばれていました。



主催 埼玉県教育委員会 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
共催 国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所 東松山市教育委員会

## 遺跡見学会



## 入間川流域緊急治水対策プロジェクトの事業説明

